令和6年度秋田県立図書館協議会 要旨

1 開催日時：令和7年2月17日（月） 午後1時30分～午後3時

2 会場：秋田県立図書館 3階多目的ホール

3 出席者：会長 高橋 秀晴

委員 土崎 真紀

〃 佐々木義範

〃 平川 研

〃 伊藤ひろみ

〃 下夕村公子

〃 川越よし子

〃 村山 喜宏

〃 三戸 忠洋

〃 佐々木光雄

〃 佐々木亜胡

〃 豊島 春香

事務局 青谷 忍 秋田県教育庁生涯学習課社会教育・読書推進チーム主任

伊藤 成孝 秋田県立図書館長

近野 祥子 〃 副館長(兼)主任学芸主事

成田 亮子 〃 主幹(兼)情報チームリーダー

小山田 希 〃 主任図書専門員(兼)図書資料チームリーダー

嵯峨 進 〃 副主幹(兼)サービスチームリーダー

芳賀奈央子 〃 副主幹(兼)企画・広報チームリーダー

嶋田 真一 〃 副主幹(兼)総務チームリーダー

4 議事概要

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) 事務局職員紹介

(4) 図書館長あいさつ

(5) 報告

■表記について（●：委員、→事務局）

令和6年度秋田県立図書館の活動状況について（各チームリーダーから説明）

●あきた文学資料館所蔵の資料については、資料目録のみを掲載している状況のようだが、資料の画像等を掲載する予定はあるか。

→画像を掲載するには、寄贈者からの許諾を得る手続きが必要になるため、そこまでできていないのが現状であるが、貴重な資料を多く所蔵しているため、今後は公開できるように検討していきたい。

●歴史的な資料であれば問題ないが、近代作家の日記や書簡については、存命の方に関わりのある内容が書かれているものもある。そのため、機械的にデジタルアーカイブで公開していくことはできない。資料の画像掲載に向けては、調査や確認を行い対応する必要がある。

●購入図書冊数と、購入雑誌冊数が昨年同月比で若干減少しているようである。資料購入費は

昨年度とほぼ同額とのことだが、冊数の減は物価上昇によるものなのか。それとも厳選した結果なのか。

→雑誌について物価上昇の影響が大きく、月刊が隔月刊に、隔月刊が季刊になるなど、刊行頻度が減少しているものが多くある。また、週刊誌も価格が上昇し、予算に占める割合が増えてきている。一方、図書については、1月の長期休館中に受け入れができなかった影響により昨年同月比で減となっているかもしれない。

●デジタルアーカイブについて、周知を図る旨記載されているが、県の広報に情報を掲載するなどの予定はあるか。より便利になり、図書に触れられる機会が増えたことを、日頃図書館を利用しない人に知ってもらえるとよいと思う。

また、ロビーコンサートを開催したとのことだが、図書館は静かな場所というイメージがある中で新しい試みでよいと思う。今回開催してみて、閲覧室への音漏れなど、改善を要する点はあったか。また今後も継続して開催する予定はあるか。

→デジタルアーカイブの広報については、随時図書館のホームページやフェイスブックで行うほか、今後、3月発行の図書館だよりで大きく特集を組んで紹介する予定である。

→ロビーコンサート開催時の音漏れについては、利用者からは気になるなどの意見は無かった。むしろ、「音楽が聞こえるのはよい」という声が聞かれた。

→今後のロビーコンサートの開催については予定していない。

→図書館は静かな空間であるべきとする従来のイメージから、小さな子ども連れの方等、多くの方々に利用してもらい、多様なニーズに応えることが理想と考える。しかし、当館は建物の構造上の制約があり難しい点も多い。1番の課題は駐車場の確保である。コンサート当日は駐車場の入口で交通整理を行い、必要に応じて共同駐車場を案内するなどの対応を取ったが、やはり懸念していたとおり早い段階から渋滞が起きてしまった。今後もイベントを行う際には、その都度対応を検討していかなければならないと考えている。

●これまでもロビーコンサートだけでなく、芸術選奨に係る展示を行うなど、分野を広げて連携していく試みは断続的に行われている。館長の発言のとおり、様々な制約を今後どうクリアしていくかが課題である。

●寄贈雑誌が増えているのは、スポンサー企業が増えているということか。スポンサー企業はどの雑誌のスポンサーになるか選べるのか。スポンサー企業の選定基準はあるのか。

→寄贈雑誌のうち、スポンサー雑誌の数は減少している。寄贈雑誌の数が増えているのは、雑誌を送ってくれる方が増えたことによるものと思われる。

→スポンサー企業には、閲覧室に配架している雑誌からまだスポンサーが付いていないものを選んでもらう。また、企業の選定基準は、ホームページに掲載している。

●資料の購入について伺いたい。借りたいと思う新刊図書が多くありがたいが、どのような基準で購入しているのか。俳句で受賞した俳人の句集を読みたいと思い検索したが、蔵書がなく、過去に受賞歴のある俳人の句集もなかった。没後評価が定まっている飯田龍太全集のようなものはあるが、現在活躍している俳人の句集が借りられないのは残念である。

→館内で組織する図書選定委員会において、秋田県立図書館資料収集要項に基づき選定している。句集については、新刊書を購入する時点で受賞していないなどの理由で漏れた可能性がある。

る。今後漏れているものがないか確認したい。また、購入リクエスト制度も設けているので活用してほしい。

●リクエスト制度もあるとのことだが、単発のリクエストを受けて購入するのではなく、特定の賞を取った句集は購入する、という基準に改めることはできないのか。過去の受賞作を読みたくてインターネットで検索したが、市場に出回っていないか、高額で手に入れることができないことが多い。地元の俳人の句集は多く所蔵されており、県立図書館として素晴らしいことだと思うが、地元の俳人以外の句集も読むことができるとよい。

●購入リクエストがあったものも、図書選定委員会で購入の可否を検討するのか。

→リクエストされたものも含めて、全ての図書は図書選定委員会で選定している。

●文学関係の賞は新しく創設されたり、廃止されたりする。賞の規模も様々のため、一律に基準を決めることは難しいかもしれないが、可能な範囲で検討をお願いしたい。また、購入リクエストへも引き続き対応してほしい。

●令和6年度第1回図書館協議会のアンケート結果によると、10代の利用者の割合が減少したとのことだが、先ほどの説明では中高生の学習利用が多いとのことである。矛盾しているように感じるがどうか。

また、学校図書館セット貸出の利用校数が減少しているのは、学校の統廃合によるものか。それとも単純に利用が減少しているのか。

→図書の貸出利用については、40代～60代利用者の割合が高く、10代利用者が少ないということであり、貸出利用ではなく、学習の場として当館を利用する中高生は非常に多いということである。

→セット貸出利用校数の減については、統廃合によるものではなく単純に利用が減少していることによるものである。利用していた先生の異動で利用がなくなることもある。

→当館としても、10代の貸出利用を伸ばそうとティーンズコーナーを充実させるなどの取組を行っている。中高生はテスト前や長期休みの際に学習の場として利用することが多い状況だが、当館に足を運んでもらうことをきっかけとして、図書の貸出利用に繋がればよいと思っている。

セット貸出等の学校支援については、利用が増えるように模索中であり、今後も様々なことに取り組んでいきたい。

●10代の人口が急激に減少している。昨年と同程度であれば頑張っていると言えるのではないか。来館者数に関して、話を聞いていて難しいと思うのが、他館からの貸出制度、デジタルアーカイブ、セット貸出制度等の充実により、来館しなくてもサービスを受けられる状況になっていることである。ただ来館者数を増やせばよいということではなく、トータルの利用が増えているかの分析が必要だろう。サービスの質は変わっているが、サービスの量が減っているわけではないということを示すことができる資料があるとよいのではないか。

●デジタル媒体について言及があったが、電子書籍サービスについてはどう考えているか。

→電子書籍サービスの導入は、全国的な普及の推移や、デジタル社会への対応等、様々な状況を勘案していかなければいけない時期に来ていると感じている。国でも、図書館の望ましい基準の改定に向けた有識者会議において、電子書籍への対応を課題に掲げている。今後も引き続き様々な情報収集を行い、検討していきたい。

→当館でも平成24年に1度電子書籍サービスを導入した経緯がある。当時は郷土資料や戦前の経済雑誌のバックナンバーを提供していたが、利用が伸びなかったため休止した。電子書籍は、契約が終わると利用できなくなってしまう、あるいは公共図書館の場合は貸出回数が一定数に達すると見られなくなるなどの制約がある。したがって、導入の際にはどのような層をターゲットにして、どのような資料を提供するのか、サービス設計を十分精査する必要があると考えているところである。

●難しい問題である。サービス提供にはランニングコストがかかり、電子書籍サービスを導入すれば、その分紙媒体の書籍の購入は減る。他県も同様だと思うが、他の都道府県立図書館の導入状況は把握しているか。

→全国調査によると、都道府県立レベルの図書館は学術系の資料を電子書籍サービスで提供していることが多く、市町村レベルの図書館は一般向けの小説などを提供していることが多いようである。47都道府県立図書館中、28の図書館が電子書籍サービスを導入している。

●利用者のニーズに応えるという目的と、県立図書館として価値のある資料を収集、保存するという目的をどう擦り合わせていくか、ということは難しいが重要な課題である。事態の進捗があればまた報告いただきたい。

●全県の県立高等学校で学校司書が14名いるが、学校司書がいる学校は比較的セット貸出を利用していると感じている。頻繁にセット内容を変えてくれるのも魅力に感じており、生徒が図書を手にとっている姿も良く見る。ありがたく思っている。

●この協議会は各分野の専門家からの改善に向けた意見や要望に終始しがちであるが、プラス面での意見は県立図書館としても励みになるだろう。マイナスの指摘も大事だが、成果についても見落とさないように意識したい。

(6) 協議

図書館利用者アンケート結果を受けた状況について

●駐車場スペースの問題についてだが、例えば土日・祝日などは、秋田駅前からイオンまでシャトルバスが出ており多くの利用者がある。駅前までは各自電車やバスで行くことができるので、土日やイベントがある時など、駅前から図書館までシャトルバスを運行するのはどうか。予算の問題もあり難しいかもしれないが、駐車場問題の解消に繋がるのではないかと。

→委員もおっしゃられたとおり予算の兼ね合いで難しいのだが、利用者の方の御意見や職員間でも様々なアイデアを出し合って検討を続けたい。

●3頁のセミナーへの要望にある聴力に難点がある方への対応だが、現在、音声文字変換ソフトが進んでおり、音声文字に変換され画面に表示できるものがある。聴覚支援学校の支援部でそういった情報を持っているので、問い合わせいただければ情報提供できる。

→今後利用者の方々から、セミナーに限らず様々な場面で障害者の方に対する支援が求められる時代になってくると思うので、その際はぜひ相談させていただきたい。

●今学校の現場でも様々な子どもがいることから、ユニバーサルデザインとして、お年寄りにも小さな子どもにも誰にでも分かる、使いやすいものを取り入れるようになってきている。

入館した際、エントランスホールの壁面一杯に様々なポスター等が掲示されているのを見たが、いろいろな障害を持つ方、お年寄りや子どもにとって、情報量が多すぎると、どの情報

受け取ればいいのか混乱してしまう場合がある。種類ごとでの分類や、隙間を設けるなどの工夫が必要になってくるのではないか。また、トイレについて物をかけるところが高いと感じた。もう少し低い位置にあれば、誰でも使いやすくなるのではないか。

今回のアンケートには載っていないことだが、知り合いのお子さんが借りた図書を破損してしまい、図書館から弁償を求められたという話を聞いた。どの程度であれば弁償が必要なのか、故意でない場合はどうなのかなど弁償の基準があるのか、また、そうした内容を利用者に提示しているのかなど教えていただきたい。

→破損した図書については可能な限り図書館で修理している。しかしながら、例えば、水に濡れた図書は波打ってしまい乾燥しても元に戻らず、カビが発生すると他の本にも影響が出る可能性がある。また、お子さんやペットが噛んでしまったりした図書は、感染症予防の観点から今後継続しての利用が難しくなることがある。このような場合は、同じ本を買ってもらうなどの弁償をお願いしている。いずれもケースバイケースで対応しており、個々の本の状態によっても異なるので一概に言うのは難しいが、基準としては、今後継続しての利用が難しい場合には弁償をお願いしている。ただ、自分が汚したものか分からない場合等は弁償を求めないので、何かお気づきの点があれば職員に御相談いただきたい。

→弁償についてはルールを一方向的に押しつけるのではなく、状況を伺い、利用者の方に納得いただいた上で弁償の手続きをとっていただいている。

しかしながら、ホームページなどで弁償の基準等を分かりやすく提示する必要性を感じており、今後のために改善して参りたい。

●小さい子どもにとって、館内では静かにしなければいけないというのはハードルが高い。子どもの部屋だけでも会話OKなどにしてもらえると子育て世代としては嬉しい。

また、妊婦さんや孫を連れてお年寄りの方等は、地べたに座って起き上がるのは難しいので、児童書の所に背もたれのある椅子やソファがあればもっと利用がしやすいと思う。

→常時は難しいのだが、例えばおはなしタイムがある日には、「すこやか読書応援タイム」として、館内放送をかけて、一般利用者に向けてお子さん連れの方への配慮を呼びかけている。

ソファや椅子の改善等はできる限りでということになるが、子育て世代が使いやすい図書館を考えてほしいとのお声もあるので検討していきたい。

●バレンタインやクリスマス等のテーマ展示が行われているが、絵本を選ぶ上でとても参考になるので助かっている。児童書以外でも、テーマ展示が行われており、とても分かりやすく興味深い。普段読まない本にも触れられる機会になるのでぜひ続けていただきたい。

●アンケートの要望事項に対する検討状況の記載内容については、どれも丁寧で納得ができる回答だと思う。

●本の弁償については様々な対応があると思うが、大仙市立図書館では子どもの絵本の破損についてはかなり寛容に対応しており、新しい本やまだ利用回数が少ない本については弁償をお願いしているが、かなり利用実績があり買い換えの時期に来ているものについては、弁償なしとしている。

4頁の寄贈に関して、大仙市立図書館でも寄贈の申し出を受けることがあり、基本は郷土資料を受け入れることとしているが、実際はあまりお断りせず一般的な図書も広く受け入れて、例えば秋の読書フェアの際に市民にプレゼントするなどしている。県立図書館ではどのような対応をしているか伺いたい。

→基本的に当館に所蔵があるものについてはお断りしている。所蔵がないものについてはお引き受けした上で、こちらの方に判断を一任していただき、必要だと判断すれば受入をし、そう

でなければ一定期間保管した後に処分することもある。物によっても違うが、基本的に郷土資料は受け入れし、一般書については所蔵のあるなしで判断している。最近では御家族から亡くなった家族の本を寄贈したいという連絡が多い。寄贈に関する申し出があった際は、まずはお話を聞きながら丁寧な対応を心がけている。

→寄贈の受け入れは書庫のスペースも考慮が必要である。これまで県立図書館では原則図書の廃棄を行ってこなかったが、書庫スペースが切迫してきていることから、複本の廃棄について基準を含めて検討しなければいけない段階にきている。

寄贈については先ほど説明したとおり、所蔵の有無で原則判断している。ただ、委員のお話も参考にして、機会を捉えてお譲りするという方法も検討していきたい。

●アンケート結果については、様々な観点を持った方が回答していることにより相矛盾する内容であることや、また費用面などの問題もあり一概に対応するのは難しい。そうした中、アンケート結果に対する回答を公表することは、様々な意見があるのだということを利用者にも理解してもらい意味でも大事である。また、対応できる、できないに関わらず、こうした意見があるのだということ把握することや、対応の難しさを共有することの大切さを委員の皆様の意見を聞いて感じたところである。今回の意見を図書館の運営に生かしていただいたい。

(7) 閉会